

## 令和7年度第2回熊本県介護現場革新会議（概要）

【日時】令和8年3月6日（金）10時00分～11時30分

【場所】熊本県医師会館 3階研修室

※発言順に掲載

No.	所属	委員氏名	資料	ページ	項目	質疑・意見・要望等	回答・今後の対応
1	公益社団法人熊本県理学療法士協会	坂崎 浩一	資料1	P.14	取組② 相談窓口・個別支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題」に「生産性向上の取組にどの程度寄与したか、効果を定量的に示すことが難しい」とあるが、確かにそのとおりと思う。</li> <li>・厚生労働省が公表している「介護ロボット等の生産性向上の取組に関する効果測定事業報告書」では、タイムスタディや心理的負担に関する評価、QOLの評価など定量的な評価の提示がなされている。次年度では、効果をきちんと検討していく上で、国が提示する評価の視点を盛り込んでいただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国が提示する評価の視点を確認する。</li> <li>・サポートセンターの取組に係る評価指標については、「利用者の満足度の悪化が見られないこと」や「総業務時間や超過勤務時間の短縮」、「有給取得の維持、増加」を設定して取り組むこととしている。今後、定量的な効果も把握できるように検討していきたい。</li> </ul>
2	公益社団法人熊本県理学療法士協会	坂崎 浩一	資料1	P.24	取組④ 研修会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会参加者へのアンケートにおいて、約6割が「個別相談の利用を希望しない」と回答したことへの検証については、今後、研修会を企画する中で、検証方法やアンケート内容など、どのような視点で検証するのが事前に準備した方がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県とも課題を共有し、アンケート内容の見直しを検討しているところ。</li> <li>・「なぜ利用しないのか」という問いについては、答えにくいという事業所もあるようなので、丁寧な聴き取りにより、理由の把握を行っていきたい。</li> </ul>
3	公益社団法人熊本県理学療法士協会	坂崎 浩一	資料1	P.29	取組⑤ 介護ロボット・ICT機器の展示、試用貸出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・27事業所の貸出し実績に対して導入に至った事業所が1つというのは、想像していたよりも少ない結果となっている。</li> <li>・導入件数が増えればよいということではないが、次年度の取組の中で対応していただければと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正確な導入件数の把握ができていない部分があると推察。</li> <li>・支援後のフォローアップにおいても正確に把握しておく必要があるため、改めて検討する。</li> </ul>
4	一般社団法人熊本県老人保健施設協会	黒土 達也	-	-	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産性向上の取組を外国人介護人材という視点で見たときに、これから受け入れを検討している事業所に対するサポートや、受け入れに対する職員の不安感の解消、教育の方法など、今後のサポート等についてどのように考えているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当会議は、サポートセンターのあり方等を議論する場であり、外国人介護人材に関することは所管外。</li> <li>・一方、外国人材については、あらゆる分野で活躍していただけるよう、県庁内に会議を立ち上げて、県全体で取組を進めているところ。</li> <li>・県商工労働部が設置している、外国人材の雇用に関する相談窓口を紹介させていただく。</li> </ul> <p>【参考】熊本県外国人サポートセンター  <a href="https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/70/2905.html">https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/70/2905.html</a></p>

No.	所属	委員氏名	資料	ページ	項目	質疑・意見・要望等	回答・今後の対応
5	一般社団法人熊本県老人保健施設協会	黒土 達也	資料1	P. 15	取組③ 伴走支援（専門家の派遣）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通してサポートする方針だと思うが、途中でサポートが終わっているようなケースもあるように見える。「継続支援」については、どのような考えがあるのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伴走支援の終了をもって支援が終わりということではなく、相談窓口による個別支援として対応していく。</li> </ul>
6	一般社団法人熊本県老人保健施設協会	黒土 達也	資料1	P. 26	取組⑤ 介護ロボット・ICT機器の展示、試用貸出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外の常設展示場は広く、多数の機器が展示されているとともに、駐車場も無料で「見やすい」、「来やすい」環境となっている。</li> <li>・熊本の展示場についても、そういう視点をもって運営をお願いしたい。</li> <li>・まだ全く対応していない事業所や色々見たい事業所にとっては、多くの機器があるべきという考え方があると思う一方、本当に導入したい事業所は、具体的な機器を使いたいと思うので、そういう2つの視点での検討をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の立ち上げ時から、ご意見にある課題は認識しているところ。そういうデメリットの部分を感じさせないように、事業所からの意見を聴きながら、展示内容を見直すなど工夫していくことで、限られた場所でも利用していただけるような展示場にしていくことが、当面の目標や取り組むべきことと考える。</li> <li>・機器等々が数多く並ぶことが最適かもしれないが、機器を導入していく中での導入プロセスや、なぜその機器の導入に至ったのか、そこでの苦労や選定に至る経緯を蓄積し、共有していくことが重要。</li> <li>・今後、来場者には、機器紹介だけではなく、自施設・自事業所の課題をアセスメントしていただきつつ、導入や生産性向上の取組に対する手法をいかにイメージしていただけるか等の情報を展示場で提供するとともに、ゆくゆくはオンラインで情報提供できるような工夫を検討したい。</li> </ul>
7	熊本県老人福祉施設協議会	後藤 卓爾	資料1	P. 26 P. 29	取組⑤ 介護ロボット・ICT機器の展示、試用貸出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設系の貸出実績23事業所と、そこから導入に繋がった事例1事業所というのは、本当に少ない。</li> <li>・貸出しリストにある機器の一部には、実際に介護現場で使っているという話を聞いたことがないものがある。狭いスペースであればこそ効果的なものを厳選すると、もっと貸出しの希望も増えて導入実績も上がるのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示機器については、介護ロボットやテクノロジーという位置付けになっていることで、展示が優先されているところがある。現在、アドバイザーと対応スタッフで勉強会を行い、展示機器選定の検討については、継続的に取り組んでいるところ。</li> <li>・見学の動機が「何か良い機器はないか」というケースがほとんどであり、機器を見学しつつも「自施設にとって何が必要か」という思考に切り替えてもらうような取組も必要。</li> <li>・一方で、機器も見てもらおうというサポートセンターの対応との兼ね合いもあるため、展示機器の選定や種類を増やすことも必要であるし、その機器のメリット・デメリットについて、きちんとフィルターをかけるような形の対応も必要。</li> </ul>

No.	所属	委員氏名	資料	ページ	項目	質疑・意見・要望等	回答・今後の対応
8	熊本県老人福祉施設協議会	後藤 卓爾	資料1	P. 36	方針② 介護テクノロジーの導入支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器は、使いこなすことが重要であり「事業所内で主導できる専門的人材の育成」に向けて検討されているということは、とても必要な視点であり大変嬉しく思う。</li> <li>・併せて、AIを活用した業務改善に取り組みようと考えている施設も結構あるため、事業所内でのデジタル的な中核人材を育成するような視点で取り組むと、現場の業務改善はもっと進むのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル中核人材の育成については、来年度以降において、どのような研修が可能かなど検討しながら取り組みたい。</li> </ul>
9	日本認知症グループホーム協会熊本県支部	高橋 恵子	資料1	P. 35	方針① 介護現場における生産性向上の取組手法の普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機器の貸し出しは無料だが、その後の導入には高額な費用が必要となり、小規模事業所や訪問介護事業所は躊躇してしまう。相談は受けてもらえるが、結局導入には繋がらない。</li> <li>・高額な機器だけではなく、より簡便で安価なものなど、現場に即した新しく改善効果が高い機器を提案いただけると嬉しい。</li> <li>・特に山間部の訪問介護事業所は、職員の高齢化に加え、機器の扱いにも疎いため、より簡便でないと使えない。</li> </ul>	(事務局回答なし)
10	日本認知症グループホーム協会熊本県支部	高橋 恵子	資料1	P. 35 P. 36	方針① 介護現場における生産性向上の取組手法の普及 方針② 介護テクノロジーの導入支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プッシュ型による支援で上益城郡にも来ていただけるということであれば、地域の事業者を集めたサポートセンターの話が聞けるような場面も作っていただけると嬉しい。</li> <li>・また、主婦の視点から、商業施設等の一角にサポートの場所があると、相談しやすくなるのではないかと思う。</li> </ul>	(事務局回答なし)
11	一般社団法人熊本県介護支援専門員協会	藤井 美香	資料1	P. 26	取組⑤ 介護ロボット・ICT機器の展示、試用貸出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアプランデータ連携システムについて、デモ機を使って体験できる支援はあるが、ソフト会社によって使い方が異なり、実用面での支援を細やかにしていかないと普及は難しいと思う。</li> <li>・システムを導入したことで、かえって手間がかかる状態となり、現場に混乱が生じていることから、導入後におけるバックアップがあればありがたい。</li> <li>・現場業務の合間で使っていくとなると、なかなか難しいところもあると感じたので、私たちが感じたことを、次のモデル事業を実施する際のアプローチに活かしてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベンダーが違うことによる操作時の混乱や習熟までに時間を要することなど、我々も苦慮しているところ。システムの細かい部分の説明となると、どのソフトにも対応できる人材の確保が非常に難しい。</li> <li>・モデル地域の場合は、市町村が業者へ委託して一定期間において伴走支援という形で細やかな対応が可能。現時点では、そういった手法以外に手段を持っていないということが弱点であると認識。</li> <li>・来年度以降もモデル事業を継続する予定であり、モデルになった地域に対しては、そういった細やかな支援を行い、併せて、課題については、国とやり取りしながら何とか良い方向に向かうように尽力していきたい。</li> </ul>

No.	所属	委員氏名	資料	ページ	項目	質疑・意見・要望等	回答・今後の対応
12	公益社団法人熊本県医師会	金澤 知徳	資料1	P. 36	方針② 介護テクノロジーの導入支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医療と介護の連携」という観点から言えば、日頃の利用者の姿を共有することがDXの最も大事なところであり、連携の中でITを活用することが非常に重要。</li> <li>・熊本県が進めるメディカルネットワークを通じて、ケアプランを伝え合ってほしい。そうすることで我々の介護施設が開かれた施設となり、それが職員のモチベーションにも繋がるのではないかな。</li> </ul>	(事務局回答なし)
13	公益社団法人熊本県看護協会	松岡 聖子	資料1	P. 36	方針② 介護テクノロジーの導入支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアプランデータ連携システムの導入に関する支援は、小規模事業所も対象となるのか。</li> </ul>	・サポートセンターをご紹介いただきたい。
14	一般社団法人熊本県介護福祉士会	石本 淳也	資料1	P. 25	取組④ 研修会の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークなどの意見交換の機会をもっと増やしていくことが、現場レベルでの意識を醸成していくという意味では、有用であると思う。</li> </ul>	(事務局回答なし)
15	一般社団法人熊本県介護福祉士会	石本 淳也	資料1	P. 36	方針② 介護テクノロジーの導入支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後藤委員の御意見にあった「デジタル中核人材の育成」については、厚労省の方で補助事業を数年前から実施されており、私が所属している日本介護福祉士会が受託して全県的に研修を実施している。その中にある研修スキームなどを熊本県版として下ろしていくなどのやり方があると思う。</li> </ul>	(事務局回答なし)
16	一般社団法人熊本県介護福祉士会	石本 淳也	資料1	P. 26	取組⑤ 介護ロボット・ICT機器の展示、試用貸出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤井（美）委員の御意見にあったように、機器は実際使ってみることで、色々なエラーやつまずきが出てくるので、好事例の横展開も大事だが、エラーをいかにキャッチアップしていくかということが大変重要ではないかと思う。</li> </ul>	(事務局回答なし)
17	一般社団法人熊本県介護福祉士会	石本 淳也	資料1	P. 35	方針① 介護現場における生産性向上の取組手法の普及	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高橋委員の御意見にあった、安価な市販の代替品があるという話はまさにそのとおりで、私の施設でもAmazonで買った数千円のカメラが夜間の見守りに大変役に立っている。</li> <li>・高い費用を負担せず、また、補助金を使わなくても取り組めるような事例を集積するなど、ある種そのオリジナリティのあるような事例が、次年度にいくつか出てくるととてもいいのではないかなと思う。</li> </ul>	(事務局回答なし)

No.	所属	委員氏名	資料	ページ	項目	質疑・意見・要望等	回答・今後の対応
18	一般社団法人熊本県 介護福祉士会	石本 淳也	-	-	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人介護人材の受け入れには手間暇がかかり、生産性が下がる。そこをどう向上させていくかが重要。</li> <li>・外国人関連施策は、県の説明のとおり担当部局が異なっている。事業所側からすると、それぞれからの情報ではなく、一方から両方の情報が得られるような仕組みがあると、まさに生産性向上につながるのではないかと、という印象を持って聞かせていただいた。</li> </ul>	(事務局回答なし)